

2022年10月3日

言いわけと説明は大違い

～ 先に言ったら「説明」、後手にまわったら「言いわけ」～

私が大阪にいた頃の先輩：野口克己先生（元大阪教育大学監事、享年72歳）が亡くなられて5年になります。先日、野口先生の本を読んでいたらおもしろい記事がありました。少し長いですがそのまま紹介します。（なお、本内容は3年ほど前に一度紹介したものです。）

まず、野口先生の紹介をします。新任は、大阪・富田林市の第一中学校です。学校に赴任した初日にやんちゃな子からガラスの大きな灰皿を投げつけられ、メガネが壊れる出会いがあったとか。そんな子たちと取っ組み合いをしながらの毎日でした。そして、荒れまくっていた中心の生徒を紀伊山地（奈良県大塔村：現五條市）の山の中で50日あまり合宿し、やがて学校の再建を成し遂げた人です。また、大阪府教委の理事兼義務教育課長のとき、堺市の学校給食で「O-157」（オーイチゴーナナ：腸管出血性大腸菌）の事件が起こります。3人の小学生が亡くなり、9,500人以上の発症者が出ました。その対応で堺市が大混乱していたとき、その收拾（しゅうしゅう）のために堺市の教育長にひっぱられた人です。その頃は亡くなった子どもの保護者さんを始め、市民の市教委への不信感は「マックス」でした。そんな保護者さん宅へ何度も何度も訪問し、やっと信頼を取り戻していかれたのです。

次の文は、野口先生が府教委を退職後、園田学園女子大学の教授をしながら守口市（大阪府）の教育長になられた時のことです。少しでも現場の力になればと、月1回の若手の先生たちの勉強会に出られたとき（6月）のことです。

1. 子どもは好きな人からしか学ばない。

新任2年目の先生たちの勉強会で、「私、大変なことをしてしまったのです。」と女性教員が語り出した。

「今、小学校3年の担任をしてるんですけど、私のクラスに毎日、問題を起こしてくれるやんちゃな子がいるんです。今日も、給食の時間に突然立ち上がって、手にパンの切れ端を持って、私のホッペのところまで突き出しながら、『先生、パン残してええか！』と言うんです。私、『何を言ってるの、みんな仲良く班で食べてるのに、たち歩かないで席に戻って、しっかり食べなさい！』と、いつもより厳しく言ったんです。そしたら、その子がね、持っていたパンをギュッと握りつぶして床にポン！と捨てたんです。『食べるものを何てことするの！許しません！食べなさい！』と言って、私、床に落ちたパンを無理やり食べさせてしまったんです……。」

（裏面へ）

助言者としてその場にいた私は、新任2年目の先生の悩みとしてはおもしろいテーマやなあと思って、右側にいた若い先生に、「あんたやったら、どうする？」と振ってみた。

その男性教員は中腰になりながら、彼女に「さらのパン、残ってへんかったんか？」と言った。

先生たちから「そんなんあかんわ、野口先生、何か言ってください。」という声があがったので、私は女の先生に、「よっしゃ、2つ言うよ。一つ目。先生、その男の子のこと、好きか？」

女の先生「好きかと言われますと・・・、あまり好きくありません。」

私、「それ、正直な気持ちと思うけど、子どもは敏感やから、そのこと感じてるよなあ。僕は担任の先生に好きくないと思われてるって。子どもは好きな人からしか学ばへんで。先生とその子の間には教育が成り立つ関係にないよなあ。・・・どうしたらいいかは後で言う。」

2. 言いわけと説明は大違い

「二つ目。先生、今から家庭訪問しといで。今日、その子はおうちの人に学校であったことを言わないかも知れん。しかし、言うかもわからん。このごろの親『そら先生が叱りはるのはあたりまえや。お前が悪い。』と、先生をたててくれる親ばかりと違うで。明日お父さんが『うちの息子に地べたに落ちたパン、無理やり食べさせた教師はどいつや！』と言って職員室に来はったら、あんた、どうするの？ お父さんとこへ飛んで行って、

『いえ、お父さん、あの子は4月にこんなことを、5月にあんなことをやりまして、6月の今、けじめをつけないと、と思って・・・』と、きつい指導したことの言いわけするんやろ。だけど、言われてからでは何を言っても言いわけになるよ。今から家へ行って、お母さんに今日あったことを説明しておいで。きっとお母さんは『先生、うちの子に気をつかわんと、もっと厳しくやってください。』って言ってくれるよ。

こちらから先に言ったら『説明』、後手にまわったら『言いわけ』。説明と言いわけでは、大違いやで。あんなあ、教育は『今日行くから教育』と言うんやで。」

「はい。わかりました。」と彼女が立ち上がったので、「ちょっと待ち。説明だけで帰ってきたらあかんで・・・。『先生、せっかく家まで来たから、5分か10分、宿題一緒にしようか？』と、その子とオデコつき合わせて勉強見たげ。家でやったら、その子のこと好きになれそうなこと何かみつかるわ。例えば、明日学校で『あんたが昨日入れてくれたお茶、おいしかったわ。やさしいところあるんやネ。』って言ったりしたら、その子は『先生、僕のこと認めてくれた。』って、教育が成り立つ関係をつくるきっかけになるかわからんやろ。」

3. こちらから好きになること

「さっき、『子どもは好きな人からしか学ばない。』と言ったけど、好かれようと思っただけダメ。子どもへの迎合になる。こっちが好きじゃないと思ってるのに、子どもが『先生のこと好き。』ということもありえへん。先生が子どものいいところ見つけて、『やさしいね。』とか『すごいね。』とか、こっちから子どもを好きになったら子どもはついてきてくれる。好かれようと思うな。好きになることやで。」

私はこんな話をしていたら、素直で一生懸命に学ぼうとしている若い先生たちのことを好きになりそうでした。